10/21 毎日新聞

医学生の修学・経済悪化

バイト減収／教材買えない

「実習で問診できず」7割超

医学連調査

全日本医学生自治会連合（医学連）は20日、全国でおこなった「医学生の声を届ける！コロナ時代の意識と生活の実態調査」の分析速報を公表しました。

8月から9月末にネットを介して行い、1143人が回答しました。（速報の分析対象は医学科1082人のみ）

アルバイトをしている割合は55・5％（600人）で、「収入がゼロ」は14・5％（87人）でした（図1）。経済状況が悪化した28・1％（303人）のうち、アルバイト収入が減少した学生は74・6％で「国の支援金では2カ月分の家賃光熱費にすら全く足りず経済的につらい」（弘前大2年）と訴えています。

経済状況が悪化した学生は「勉学に必要な教材が買えない」（83件）「学費が払えない」（21件）などの回答がありました。

国や各大学の経済支援について「受給したが不十分だった」「申請したが不採用だった」などを合わせると、約3割の学生がいっそうの支援を求めており、「影響が長期化しているので、再度募集してほしい」と述べています。

実習で経験できなくなっている内容として「患者の問診」（76・0％）などがあり（図2）、「医師になるための最低限の手技が身につかないまま卒業するのはかなり不安がある」（宮崎大学5年）などと答えています。

講義の大部分が「資料配布のみ」の学生は、自身の学修到達度が低いと認識。「同級生や先輩と勉強できない」（221件）「図書館や学習室が利用できない」（188件）と訴えています。就職活動については、8割近くの学生が「情報提供や病院見学の機会は不十分」だと回答しています。

図1 アルバイト収入の変化

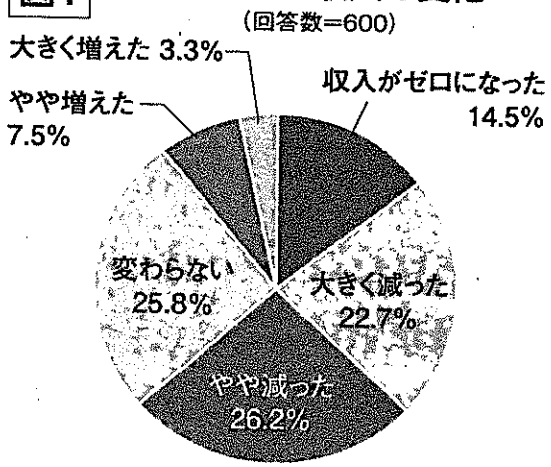
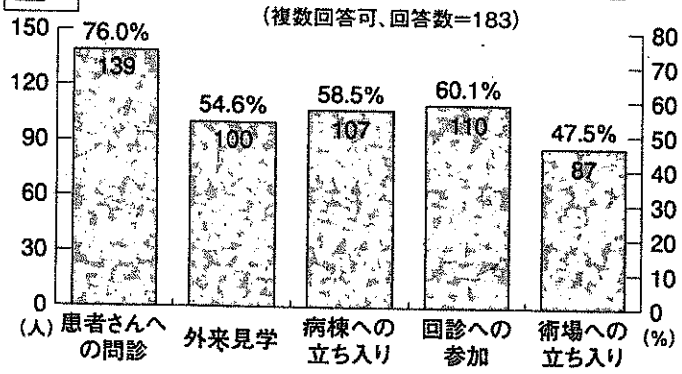
図2 実習で経験できなくなっていること